

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0874300973		
法人名	(有)ケアサービスコスモス倶楽部		
事業所名	グループホームにれの木桃花寮		
所在地	茨城県古河市仁連1987-15		
自己評価作成日	2022年10月6日	評価結果市町村受理日	2023年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0874300973-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2022年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者・家族の意向や思いを大切に住み慣れた地域で穏やかに暮らし、地域の祭りなどに参加し家族や地域の方々との交流を持てるように支援をします。 桃狩りやブルーベリーなど旬の味わい、摘む楽しみや季節を感じられる食事の提供に心がけています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>昔ながらの大家族のようなアットホームな雰囲気がある1ユニットの事業所である。少人数だからこそ出来る半自給自足の生活が可能になっている。農作物作りが得意の職員が中心になって畑を借り、コロナ禍前は近所の方の手も借りながら野菜を育て収穫している。コロナ禍でも感染対策を工夫して運営推進会議はなるべく対面で行い、地域の祭りに出かけるなどしてストレスの軽減に努めている。災害対策は、他の地域で発生した災害を参考にして良く考えられていた。*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。</p>

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のもと地域との交流に努めています。	地域との交流が難しい中でも間接的な繋がりを継続しながら、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、定例会議を通して地域とのつながり、何を行って行くかなど取り組んでいます。	コロナ禍でボランティアや地域との関わりが少なくなった。コロナ禍前は野菜などをもって立ち寄ってくれる近所の方も多かったが、利用者との接触を気遣って訪問を自粛してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ下で地域の祭りなどに利用者・職員の参加が出来なかったが、今後感染症対策の上検討、継続して行きたい。 子供会や地域の方々の集まれる施設として行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催、会議の場で意見交換話し合い、サービスの向上に努めています	お便りを添えて書面で開催していたが、今年は感染対策をしながら対面でも1度開催した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者、ケアマネが行政に行き、又電話で意見を伺い、質の向上に努めています。	コロナに関する情報提供があつたり、相談をしたりしている。感染対策についての定期的にチェックが入る。不明な点はいつでも相談対応してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者、家族に説明や意向に合わせて、できるだけ拘束をしないケアを心がけています。	委員会の設置はないが、定期的にミーティングで話題にしている。研修を行いながら虐待について確認している。職員からは現場で疑問を感じた時に質問され、その都度一緒に考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体・精神的な面も考慮し、拘束の無いケアや観察に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修し、帰宅後や家族来所時にお聞きし、身体・精神的なもの等の観察や報告など行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の見学や契約内容の説明を行い、納得した上での契約、捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見のお聴き取りや電話報告、面会時などに随時家族が意見を述べやすくなるよう工夫し意見の聞き取りを行っています。	少しの怪我でも家族に細かく報告する。管理者と家族はLINEでやり取りをしており、遠方の方には動画を送ることもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場で意見交換をしています。	職員間のチームワークは良く、コミュニケーションが取れている。会議には社長も出席し、職員から直接意見を聞く機会ともなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格に合わせ手当を支給し、又実践者研修者には役職者に任命している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自主学習の勧めや実践者研修等の受講者が職員の研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	古河市のグループホーム連絡会で施設同士の情報交換、サービスの質の向上に努めて行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居予定者には本人家族に寮の見学や説明などを行い、本人の要望を傾聴し、なじめる雰囲気を作り安心感と信頼関係を持てるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談者の方が安心して話せるよう傾聴、理解し、適切な情報収集と提供に心がけ信頼を頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族の現在置かれている状況を聴き取り、直面している困りごと、ご希望を把握し適切な対応を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主訴として困りごとを聞く際に本当は自分はどうありたいのか、ニーズの共有、自己決定が出来る様に支援を心がけています。特技など人生の先輩として意見を聴くなど支え合う関係を維持しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時、面会・外出ができるよう感染症対策を考慮しつつ、協力体制を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの他入居者・職員等との触れ合いや自室、ソファーなどの馴染みの居場所があり、親族や知人との関係が途切れないように努めています。	利用者と家族には電話でお互いの声を聞いてもらう。LINEの動画で近況報告する事もある。面会は玄関の外で行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビング、食堂をメインにテイタイム、レク、ラジオ体操など参加交流が持てるよう支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退寮にあたり、行き先資料を集め、家族様と共に次に繋げています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護保険の立案時に本人の意見を積極的に取り入れ、できるだけ本人の気持ちを傾聴し、本人の意思に添い作成、本人家族に説明しています。	利用者に関する新たな気付きは、口頭で伝えたり、記録や申し送りノートで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味や楽しみ、価値観など傾聴し、把握に努め今まで頑張ってきたことに共感し、今までの生活、出来る事の継続への支援をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お聴きし、職員同士の随時の申し送りやバイタルチェックノート等の活用や往診時に職員が付き添いし情報の把握、収集、報告に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向を話し合い、情報収集、職員間で共有作成しています。	ケアプランは現場にケース記録と一緒に置いて確認している。モニタリングは6か月毎で、チェックリストを活用してケアマネ中心に行うが、家族にも一緒にモニタリングしてもらう。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理者、職員間で日々のケアや問題点等その都度話し合い、申し送り、連携を取り実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族・本人の意向やニーズに合わせて通院支援や面会の依頼、話し合えるような支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族、ボランティア、地域の方々との交流を感じ、本人が心身の力を発揮しながら安全で笑顔のある生活への支援を心がけていきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院の継続や寮の協力病院の県西在宅クリニックの往診、さいとう歯科、落合薬局の薬届など選択し希望に添った支援をしています。	利用者全員、同じ訪問診療を利用している。レントゲン、点滴、処置などもすぐに対応してもらえるので医療面の不安はない。専門外来への受診に同行する事もある。歯科の訪問があるが、通院の対応も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや観察、気づき等県西在宅クリニック医師や看護師などへの連絡や家族や職員間での随時の報告、連絡をとり支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医師・看護師の紹介状など家族様と連絡を取り合い情報の提供をしています。退院時は看護申し送り等を頂き本人の容態の把握、対応支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、重度化に向けては契約時から本人・家族の意向を確認し、医師・本人・家族とその時、その都度意向を確認しての支援を心がけています。	職員は看取りについて少し不安を感じている。ほとんどの利用者がホームでの看取りを希望している。看取りケアの方針は、医師が中心となり、看護師も含め職員で話し合う。夜間急変時は管理者が対応する。管理者は職員の看取り後のメンタルケアに配慮している。家族が泊まる事も出来る。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	県西在宅クリニック医師の指示のもと緊急時マニュアルに乗っ取り対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	古河市と早めの連絡を取り早めの状況判断し対応マニュアルに従って行って行きたい併設の蒼天の郷と訓練を行っているが、地域住民の協力依頼をしている	発電機を備えている。通勤時にの冠水場所の確認をしている。備蓄品は各施設ごとに用意。断水時は地下水に切り替えて使用することが可能。炊き出しを想定して近所からいただく薪を備蓄。室内の暖炉は調理も可能。避難訓練ではテラスに出て待機した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、プライバシーには十分に配慮し対応支援をしています。個人情報の取り扱いや写真の掲載等契約書内に説明同意を頂いている。	写真掲載時には確認する。生活歴や、その方の触れられたくない過去に配慮している。リハビリパンツを使用している人への声掛けにも配慮している。トイレや入浴時の羞恥心にも気を配る。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思で決められるように傾聴し、相談に乗り支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向・希望に配慮して自分で選べるように傾聴し、相談に乗り支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や身だしなみなど出来ることは行って頂けるよう声掛け支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片づけなど状況に応じて手伝って貰いできる範囲で参加を促しています。明るい雰囲気の中で食事が摂れるよう配慮しています。	冷蔵庫の食材を見てから献立を決める。畑の野菜も取り入れて調理。旬の食材を使い、季節を感じる食事にこだわっており、行事食も提供。刺身を食いたいという要望に応え、夕食に提供した。たくさん収穫された野菜は作り置きをして保存食としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取、水分等個人別に記録し、把握に努め、医師、家族と連絡、指導を頂き支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力病院のさいとう歯科医師の指導を受け、毎日の口腔ケアや衛生、食事の前に嚥下障害予防の為に発声練習など声かけ支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンの把握に努め、トイレの声かけや誘導介助を行い、トイレでの排泄介助やできる場所は声かけ見守りし、プライドを傷つけないような支援を心がけています。	夜間は1時間ごとに巡回し、タイミングを見計らって誘導する。記録を見てパットの種類などを検討し、家族の経済的負担を考えて安価なものを探す。使用数が増え負担が多くなる時には家族に連絡する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理の工夫や医師と連携し、排便パターンの把握に努め、食物繊維の多い食事の提供など容態に応じて支援をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の様態や希望を聞きながら個々に合わせた支援をしています。	季節に合わせたゆず湯やしょうぶ湯などの行事湯を楽しむ他、入浴剤などを利用し入浴を楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの物を部屋に置き、心地よい空間や安眠できるように話し相手、相談に乗り、安心して休むことができるような支援を心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の管理指導のもと、薬局の薬の管理・説明指導・届け、個々の服薬後の様子、容態など報告相談し連携を図り支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分達で食べたいものを一緒に作ったり、今までの趣味などを活かし、出来る事は手伝いある環境、持っている力を発揮できるような支援を心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年も感染症対策もあり地域の祭りや一緒に買い物や外出する機会が減りました。今後、感染症対策を考慮し支援をしていきたい。	庭に出て散歩するだけでも気分転換となる。今年も感染症対策を十分にして、さんさん祭りに出かけた。通院の帰りに買い物したり、テラスで弁当を食べながら外出気分を味わう事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に合わせて金銭管理の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話があった時は家族からの伝言を伝え、本人の希望時随時にできるよう支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖炉の暖かさのある生活空間や四季を五感で感じられるような花や緑に囲まれ居心地良く過ごせるよう支援を心がけています。	玄関先の軒下には干し柿がつるされ秋を感じる。玄関に上がると正面に暖炉があり、近くにはソファが置かれ、ゆっくり過ごせるようになっている。自宅で育てていたメダカを連れてきて世話を続ける方もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で集えるダイニング、暖かく居心地の良い暖炉前のソファ、一人で居たいときの自分の居室など、思い思いの場所にゆったりと過ごせるよう支援を心がけています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を部屋に置き、心地よい空間や安眠できるよう居心地の良い居場所の工夫、支援を心がけています。	広めの造りで、トイレや洗面所、ソファが設置されていても余裕が感じられ、自宅の大きな仏壇を持ち込むことも可能。家族の写真や、新聞記事の切り抜きが貼ってある方がいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	解りやすい部屋の配慮や自発的にリハなど出来るように手すりやスロープ、階段など利用しています。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームにれの木桃花寮

作成年月日 : 2023年1月30日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全国で天災(地震・水害)、火災等が発生しています。 継続して利用者様のグループホームでの生活の安全の確保の必要性がある。	遠方にいらっしゃる家族様に安心していただけるよう 利用者様の生活環境を作っていく。	・災害時の職員通勤ルートの確認、確保、連絡詳細の確保 ・地域自主防災組織と連携を図り、場面を想定し避難訓練を行う ・定例会時話し合いをする ・家族様と連絡報告をこまめにする	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。